

8月

撮影：2019年7月（埼玉県 三郷市 鷹野）



## あの日のあの川 リレー日記 ～第45話～



あの日のあの川

リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

## 第45話主人公 中村碩希

（筑波大学社会国際学群 国際総合学類 白川（直）研究室『川と人』ゼミ）

（■川ガール・□川系男子）

（出身地を流れる川：埼玉県江戸川）

## 「思い出と今」

いつのこと？：小学校

どこの川？：江戸川

私の生まれ育った埼玉県東部は全体が低湿な土地であり、私の住む三郷市は東西を中川と江戸川に挟まれています。そのような三郷で生まれ育った私にとって、川は幼少のころから自分の生活のすぐそばに流れているものでした。私の住んでいる場所での川は下流域ということもあり、川の中で遊ぶというよりは、川の近くの河川敷や土手などで遊ぶことが多かったです。特に私が通っていた小学校は江戸川の土手のすぐ真下にあり、私にとっての川、河川敷、そして土手はとも大切な遊びの場であり、同時に自然に触れ合う学びの場でありました。

今回は私の小学生時代の川とのふれあいを振り返りながら子供にとって自然とふれあいがどのように今の私の中に息づいているのかを考えてみたいと思います。

小学生のころの江戸川での記憶は四季折々の姿があり、またそこで四季を感じながら遊んでいたことが印象深く残っています。

春は土手一面に咲く菜の花を見に行き、菜の花を摘んだり、冬が明けて久しぶりに見る蝶や、鳴き声と飛び方が面白かったヒバリを見つけ、夏は暑さから逃れるように川の近くや橋の下で涼んで友達と話したり、それに飽きたらバッタなどの昆虫を追いかけまわしたり、花火大会で友達や家族と花火を見たりしました。秋になると高水敷に大きなススキが群生していたところを今から思えば危険なことですが探検と称して友達と歩き回っていたことが今でも思い出します。そして冬には今まで緑があふれていた土手も枯草になり、そこで風揚げや芝滑りなどをしていました。特に芝滑りは、家からダンボールを持ってきて自分で芝滑り用のそりを作り友達と競争したことは本当に楽しかった記憶になっています。

それ以外にも祖父とフナやハゼなど釣りに行ったり、河川敷の広場のようなところで野球やサッカーなどをしたり、私の中で江戸川は小学生時代の遊びの中心的なスポットでした。

その後中学高校へと進学したときも江戸川は朝や夜にランニングをしたり、久しぶりに近所に住む友達とサッカーをしたり大学生になりこれから社会に出ていこうとしている今でも江戸川は運動の場や気分転換などができる憩いの場所として利用しています。

この記事執筆するにあたって江戸川に実際に足を運んだ時も土手で遊んでいる小学生や少年野球をしている中学生、犬の散歩をしている近所の方や自転車やランニングで汗を流している大人様々な人が江戸川で思い思いの時間を過ごしていました。そして今まで気が付かなかったのですが、町の景色は私が小学生だったころに比べて田んぼや畑が無くなり、宅地が増え、次々に変わっている一方で、江戸川の風景は私が子供だったころと何ら変わらぬものでした。そのことに気が付いたときはなんだか無性に懐かしく、うれしい気持ちになりました。私にとって江戸川は生まれた時から自分の身近なものでしたが、このように世代を問わず同じ風景中で思い出を作り、そして年齢も関係なく皆が利用したいと思える川というものは実はとても貴重で価値のあるものなのだなと思いました。

(次号は10月号にて松本さんにバトンを託します)

■ 連載『あの日のあの川 リレー日記』のバックナンバーはJRRNホームページ内の以下よりご覧いただけます！

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/category/riverdiary>